

## 貞良里予神社「どんどん焼き」令和3年1月14日(木)

どんどん焼きは、門松やしめ飾りなどで出迎え歳神様を、1月14日にお正月飾りを焼くことによって炎とともに送る意味があると言われています。一般的なのが、神社やお寺で門松、しめ縄、破魔矢、お正月飾りや、書き初めなどを持ち寄って焼くのが趣旨です。

「私たちの子供の頃のだんご焼き」各家庭で三つ又の桜の木等に3個の団子（白・桃・緑）、桜木の小枝等に団子（白・桃、緑）を一杯にさし、どんどん焼きで焼き、これを家庭の人が少しずつ戴くことにより、一年間無病息災、家内安全と言われてました。また、集まってきた子供たちには、お菓子などを分け与えた子供達には、このうえないお正月の行事でしたが、次第に昔の様な盛大さは無くなりつつある様に感じられます。

どんどん焼きにまつわる言い伝え「若返りの効果。火で焼いたお餅や団子を食べると、1年間健康で過ごせる。書き初めを火にくべた時に、高く上がると字が上手になる。どんどん焼きの灰を持ち帰り家の周囲にまくと魔除けになるなど。」



今年は、コロナ終息の見通しがたたない状況・緊急事態宣言・不要不急の外出自粛によりお正月飾り等を焼き歳神様を送るのみとなりました。子供たちも楽しみにしていた白・桃・緑の団子を焼くことが出来ませんでした。